

# 豊かな自然を守る

## 御調町 綾目の 源五郎米

あなたが綾目(あやめ)の美味しいお米を食べてくださることで源五郎(ゲンゴロウ)をはじめとする綾目の豊かな自然を守ることができます。

なぜなら、豊かな自然は綾目の人々の農林業の営みとともにあるからです。

人の暮らしがあって、田んぼがあって、里山があるからこそ多くの動植物の命が守られているのです。

そんな思いで御調町綾目で栽培した「源五郎米」を是非ご賞味ください。

源五郎米研究会と田んぼネットの取り組むゲンゴロウの住みやすい米作りと田んぼの学校の取り組みは、昨年、農林水産省主催・第1回田園自然再生活動コンクールにおいて『こどもと生きもの賞』を受賞しました



▲御調町綾目の源五郎米を栽培している田んぼ。田んぼには「生きもの保全田」の表示をしている。源五郎やコオイムシ、タイコウチ、赤トンボなど、いろんな生き物が住んでいる。

## 源五郎米とは

御調町綾目には、環境省が絶滅のおそれがあるとして「準絶滅危惧種」として指定しているゲンゴロウ、絶滅危惧種に指定されているキキョウなど、豊かな自然が残っています。

しかし、この豊かな自然は「ただ自然に」残っているわけではありません。

ゲンゴロウやホタル、キキョウやエヒメアヤメといった生き物たちは、お米が作られている田んぼや手入れされた里山あるからこそ、ここで生まれ、命の糧を得て、命をつないでいるのです。

愛媛大学農学部の日鷹一雅助教授の研究グループは、この豊かな自然の残る綾目・鈴地区で、農業と自然の共生を取り戻すために、ゲンゴロウやカエルなどの生き物達の生態と農業の関わりについての調査を続けています。綾目・鈴地区の自然の豊かさの理由と農林業との関係性を解き明かすことで、急速に失われつつある多くの農村の豊かな自然を取り戻す方策を見つけたいと考えているのです。

この調査結果を踏まえ、御調町綾目地区の米生産者は、豊かな自然を守るために「御調町源五郎米研究会」を結成しました。綾目地区の豊かな自然を守り、さらに豊かにするために、ゲンゴロウのすんでいる綾目地区の田んぼで栽培しているお米を「源五郎米」として販売することとしました。美味しいお米を食べて自然も守れる源五郎米。一人でも多くの方のご支援をお待ちしています。

### <源五郎米農薬使用状況> (の番号は下表の農薬使用パターンの番号)

田んぼごとによって農薬の使用状況は異なります。最も多く使用しているケースで種子消毒; 殺菌剤と殺虫剤と殺菌剤のあわせて単剤換算3回、田植時; 殺虫剤と殺菌剤の混合剤1回(単剤換算2回)、田んぼでの農薬; 殺菌剤1回、殺虫剤1回で、あわせて単剤換算にして7回です。最も少ないケースは種子消毒; なし、田植時; なし、田んぼでの農薬; なしで、単剤換算0回となっています。なお除草剤は全ての田んぼで使用しています。

**アキロマン**: 広島県が育種した美味しいお米です。栽培できる地域は適地のみに限定されており御調町も指定された産地のひとつです。

**キヌヒカリ**: ちょっと聞きなれないお米ですが、コシヒカリに負けず劣らず美味しいお米です。

	種子(種初)消毒	田植時の箱苗施薬	除草剤	田んぼでの農薬
使用回数	なし(種初を60のお湯で10分間つける)もしくは殺菌剤と殺虫剤の混合剤による種子消毒(農協もしくは業者が供給する苗を使用した場合)	殺虫剤+殺菌剤の混合剤1回(単剤換算2回)もしくは殺虫剤1回(単剤換算1回)もしくはなし	1回	殺虫剤と殺菌剤の混合剤1回(単剤換算3回)もしくは殺菌剤3回(単剤換算3回)もしくは殺菌剤+殺虫剤(単剤換算2回)もしくは殺菌剤1回(単剤換算3回)もしくはなし
病害虫名	病気: 馬鹿苗病, いもち病など	害虫: 稲水像虫(イネミズゾウムシ), 稲泥負虫(イネドロオイムシ) 病気: いもち病	雑草: ヒエ, コナギなど	害虫: 雲霞(ウンカ), 亀虫(カメムシ) 病気: いもち病

# 農家の取り組み

自然が豊かになる米作りから始めています。

## 生き物にすみよい米作りと田んぼ作り

減農薬に努めヒヨセに水を切らさないなど、ゲンゴロウなどの生き物がすみやすい米作りと田んぼの管理に取り組む。

## 農業・自然体験の場の提供

消費者や地域の人たちが綾目の豊かな自然や米作りを体験できる機会を提供する。

## 里山の生き物の保護

ゲンゴロウや自然に関する調査や保護活動に参加したり、米の売上代金の一部を、地域の自然を守るための取り組みの費用に充てる。



源五郎の調査を進める愛媛大学農学部日鷹助教授（後列左）と源五郎米研究会の面々

# 価格 (玄米)

## 玄米をいろんなつきかたで楽しもう！！

お届けするお米はすべて玄米です。玄米が苦手な方はお近くのコイン精米機で精米してお召し上がりください。

お米の本来の味を楽しむのであれば、家庭用の精米機の購入をお勧めします。つきたてのお米がたべられます。お近くの電気店でもいろいろ販売されていますが、東広島にある大手精米機メーカー・サタケの「マジックミル」がお勧めです。サタケは主に業務用大型機械を製造し海外へも輸出している信頼の置けるメーカーですが、家庭用の精米機も販売しています。一度に5合まで精米でき、七分づき、五分づき、胚芽米などがいろいろ精米できます。買い置きのお米の再精米すればつきたての美味しさに生まれ変わります。大きさは電気ポットサイズで場所も取りません。JA尾道市でも扱っていますし、通信販売のカタログ「通販生活・ピカイチ辞典2004年版」(32,800円)にもスグレモノとして紹介してあります。

銘柄(玄米)	30kg (税込み)	10kg (税込)
コシヒカリ	13,000	4,500
アキロマン キヌヒカリ	11,800	4,100

<尾道市・御調町・因島市・向島町の配達料は無料、それ以外の地域への配送は下記のように宅急便送料を頂戴します>

30kg: 800~1,100円

10kg: 500~650円

売上代金の中から玄米30kgあたり1000円を綾目地区のゲンゴロウをはじめとする自然環境の保全のための取り組みに充てさせていただきます。

# お問い合わせ先・ご注文先

申し込み受付期間：第1次9月10日(金) 第2次9月30日(木)までとします。

お届け：10月上旬から下旬となります。正確な期日は後日ご注文いただいた方へご連絡いたします。

## お問合せ先

J A尾道市・御調営農センター

〒722-0342 広島県御調郡御調町大田 800

tel 08487-6-2242 fax 6-0422

## 関係団体

田んぼネット

- ・ホームページ
- ・Eメール

〒722-0324 広島県御調郡御調町白太

<http://gambo.minidns.net/>

[i.nobuyasu@nifty.com](mailto:i.nobuyasu@nifty.com)

延安気付

tel&fax 08487-6-1585

ホームページでは田んぼネットが綾目鈴地区で開催している田んぼの学校「がんばートラの穴」や源五郎米研究会の取り組みを紹介しています。

# おなかま通信

2004年9月号  
発行 J A尾道市環境農業研究会  
田んぼネット  
御調郡御調町大田800 tel.08487 6 2242  
Email i.nobuyasu@nifty.com  
たんぼでがんばーホームページ  
<http://gambo.minidns.net/>

## がんばー日記(七・八月)

七月七日(水)

### トノサマガエルが絶滅?

(中国新聞より)

広島県は、改訂した「レッドデータブック(RDB)ひろしま」で、トノサマガエルを初めて準絶滅危ぐ種にリストアップした。水田の減少などで急速に姿を消しているため、中国地方五県では山口県に続く選定となる。雄が雌を誘うのに鳴き合う「蛙(かわず)合戦」も、減反政策や土地造成のあおりで消えゆく営みになりつつある。

トノサマガエルは、アカガエル科で体長五、九センチ。主に水田に生息し、日本では最もなじみ深い両生類の一つ。背中に線があり、雄と雌で体色や模様が違うのが特徴だ。

県自然環境保全室などによると、トノサマガエルは県内の水田で普通に観察できたが、近年は激減。山間部でも発見が難しくなり、にぎやかに鳴き競う声もほとんど聞けなくなっている。このため、種の存続に「黄信号」をとまず準絶滅危ぐ種の指定に踏み切った。

選定に携わった県立安古市高校の内藤順一教師は「耕作の機械化で冬に水を抜く田が増え、農道の整備が進んだこともあって、産卵や冬眠場所がなくなったことが主因」とみる。住宅、商業地の造成で田が減り、過疎化が進む山間部で休耕田が増えているのも理由に考えられる、という。

生物の環境動態に詳しい京都大学大学院の松井正文教授は「コマツくりに消極的な国の政策に伴って田が減り、全国的にトノサマガエルは減少している」と指摘する。

県は今回、発行した改訂版RDBひろしまの中で「このままでは(絶滅の危険性が高い)絶滅危ぐ種に移行する可能性がある」と指摘。今後、主要な図書館に無料で改訂版を配るなどして、保護を呼び掛ける方針だ。

改訂は一九九五年の初版から九年ぶりとなる。秋の七草の一つ、キキョウや、淡水魚類で八ヶ科のドンコ、コイ科のアブラボテなども、新たに準絶滅危ぐ種に選定。マルコガタノゲンゴロウなど昆虫四種が絶滅種となった。選定種は改訂前の三百種の二・五倍となる七百五十一種に増えた。A4判の五百十六ページ。一冊二千八百円で販売している。問い合わせは、県自然環境保全室

TEL082(513)2933。

七月七日(水) **たんぼでがんばーHPの掲示板より**  
今日の中国新聞に出ていたが、山口県に続き、広島県でもトノサマガエルが準絶滅危ぐ種になってしまいました。鈴に行くといっぱいいます。が、全体的にみると危機的な状況のようです。年中、水をいれている水田がやはり重要ということでしょう。

七月九日(水) **のぶやす** HP掲示板より

トノサマガエルがいなくなっているのは都市近郊のことではない。田舎へ行けば、昔と変わらない田園風景。と思っていたら大間違い。生産性の追求や稼がなくて生計が立たない農家の生活は、たくさんの生き物の住処を奪ってしまった。ウサギ追いかの山。は草ぼうぼうでササユリもキキョウもヒメアマメもカタクリも消えうせた。コブナ釣りの川。は河口堰でウナギも鮎もズガニも遡上できなくなって放流頼み、田んぼと水路も断絶されてメダカも絶滅危ぐ種になってしまった。

ちなみに絶滅の恐れのある生き物の種の半分が人里の生き物だ。

もうすぐ夏休み。田舎へ帰って川や山へ行く機会も増えるだろう。田舎のおじさん、おばさん、おじちゃん、おばあちゃんに昔の自然のこと、今の自然のこと、農業のこと、いろいろ話をしてみよう。スーパーの店頭に並んでいるお米や野菜を見る目がきつと変わるはずだ。

### 七月十八日(日) 田の草取り・スイカ



子どもたちも草刈を頑張った。手前にびっしり見えるのが手ごわい雑草「コナギ」。紫色の可愛い花を咲かせるが食わせ者。

### 割り・ソーメン流し

今日はみんなが楽しみしていたソーメン流し。でも、その前に大事な仕事がある。それは先月みんなで植えた田んぼの草取りだ。田んぼにはびっしりと雑草のコナギが生えていた。こいつを放っておくと稲の養分を横取りして稲が育たない。だから放っておくわけにはいかない。

でも草取りはそんなに面白い作業ではない。途中で音を立てて田んぼから脱走するものも出る始末。でもどうにか3分の2ほどどうにか終えることができた。

その後はみんなが楽しみにしていたソーメン流しとスイカ割りで楽しく過ごした。それと、この日は広島テレビのテレビ宣言の取材チームが鈴を訪れた。放送は火曜日の18時半頃から。みんな見てください。写真は草取りの様子。手前に見えるのが雑草のコナギ。紫色の可愛い花を咲かせるが食わせ者。

七月十八日(日) **ゆげるさん** HP掲示板より

ひさしぶりにやってきました。みなさん暑いのにご苦労さんです！お元気でがんばっておられますね！田んぼの草取り、言々と何百年も続いてきた由緒ある「お仕事」ですね。薬を撒く誘惑にうち勝つてこそ、御百姓の値打ちがあるということなんです。そーめん流しも、おいしいですよ。

七月十九日(月) **のぶやす** HP掲示板より

薬を撒く誘惑にうち勝つてこそ、御百姓の値打ちがあるということなんです。そうか、そういうことなんです。次回は8月22日(日)です。集会所の



減りつつある人里の生き物の取材ということで広島テレビ・テレビ宣言の取材班が鈴を訪れた。何人もの子どもたちがインタビューを受けたが放送されたのはチョッピー。

敷地の桜の木に掛けた鳥の巣箱にスズメバチが巣をします。かわいそうだけど危ないのでスズメバチの子をみんな食べて食べる計画です。田んぼにはイナゴもたくさんいるようなのでこいつもいただきます。ムシを食す8月のがんぼーです。

七月三十一日(日) **ゆげるさん** HP掲示板より

なんと小鳥用の巣箱にスズメバチが営巣?! そりゃ、八子のほうが悪い。あまりにも人のフンドシすぎる。八子の子、食われて当然です!



夏はなんといってもソーメン流し。この日生まれて初めて体験したというママもいた。よかったね!



星野君率いる広島組の発案でやったスイカ割り。子どもだけでなく大人も大いに盛り上がった。

# 八月二十二日(日) 八チの子はトンスラ

## 代わりにイナゴを食った

昨晚 カッパ、長靴、帽子、その上から網をかぶるといふ完全装備で、小鳥用の巣箱に入り込んだキイロスズメバチの巣をいまだこうと鈴へ出かけた。巣箱から親蜂を追い出し、巣箱の出入り口に出たところをガスバーナーの火で焼き殺すという計画だったのだが、巣を叩いても何も出てこない。中をのぞいてみると、親蜂はおるか巣の中には蜂の子もいない。巣立ちをってしまったのだろうか。

というわけで蜂の子にはありつけず、代わりにがんぼーの田んぼでイナゴをとった。

とったイナゴはお昼に唐揚げにしてみんなで食べた。お母さん方は気持ち悪かったが、子どもとおやじ達は「うまい、うまい。ビールつまみにもってこいじゃ」と瞬間にたいらげた。

子どもには変な先入観がないし、おやじは好奇心で抵抗なく食べた。が、田んぼで飛んでいた「虫」を食べるといふのは、ゴキブリを想像したり、ついついいろんなことを考えてしまってお母さん方には向きが悪かったのかな。

目をつむって食べれば食感の小エビの唐揚げといった感じ。なかなかいける。

子どもの時から何を食べてきたかで、食べ物になる生き物とそうでない生き物のイメージができてあがってしまうのだらう。

この日、鈴の年配の人たちに昔食べたもの話を聞



小エビのから揚げならぬいなごのから揚げ。香ばしくて、カリカリしていてビールのつまみに最適。いなごは秋までいるから来月もいただくことにしよう。



がんぼーの常連、佐藤さんがトノサマガエルのえさのやり方を教えてくれた。死んだ餌なら口を強引にこじ開けて餌を入れる。それを殿様ガエルは目を使って飲み込むのだそうだ。上あごのすぐ上。目があるので、目玉を動かして餌を胃へ送りこむ。写真に写っているのが上あごに飛び出た二つの目玉。

いたら、いなごを食べたり、野ウサギを骨ごとつぶして肉団子にして食べたりしていたという。

そういう意味で、「普通」の子ども達と違ってがんぼー達はいなごを食べたり、野草を食べたり、いろんなものを食べたりするから、「虫なんか食べるのは気持ち悪い」などという、偏見を持たない立派な大人になることだらう。期待してるよ!

写真はいなご(稲子)の唐揚げ。文字通り稲の葉を食べて育つ害虫だ。でも稲を食べるときは害虫でも最終的に人の口にはいるのだとしたら、アマガモ農法(正式名はアマガモ水稲同時作)と同じだな。田んぼで稲といなごを同時に育てて両方いただけば、米と同様にいなごも田んぼの恵みだ。

### なへ

いなごがこれほどいけるとは思いませんでした。こんなに手軽に調理できて、うまいものを昔の人が食べていないわけがない。きっといなごを食べるとピンポイント扱いはされるので、みなだまってるだけかもしれません。

## 源五郎米研究会・田んぼの観察

がんぼー達といなごを食った後、源五郎米研究会の勉強会を開いた。研究会の事務局を務める藤原さんは今年思い切った田植えの時使ったイモチ病とイネミズゾウムシなどの害虫を防除する農薬を使うのを止めた。環境農業研究会のメンバーが既に止めてから何年も経つというのを聞いて試してみたのだ。しかし、残念なことに今年はいもち病の当たり年となってしまう。鈴より以北の地域では、田植えに農

薬を使用した田んぼでもイモチ病が発生し、農家は防除に追われた。

藤原さんの田んぼでも大発生し、イモチ病を防ぐ農薬を3回に渡って使用した。それでも、稲穂や物の付け根の軸がイモチ病に感染し、実りの見込めない穂が田んぼに広がってしまった。

この日、研究会のみんなも藤原さんの田んぼを観察した。藤原さんはイモチ病の他にウンカなどの害虫の被害を心配していて、源五郎米研究会の会長・常清さんに害虫の様子を調べてもらった。常清さんは長年県庁に勤め、病害虫の専門家として農家の指導にあたり、この道のプロだ。

常清さんは害虫を観察するための虫見板を手に藤原さんの田んぼに入った。その結果、ヒメトビウンカが見つかったが、被害が出るほどではないことがわかった。観察結果に藤原さんは一安心。殺虫剤は使用しないで収穫を迎えることができそうだった。

減農薬2年生の藤原さん、イモチ病の農薬は使用したが、昨年より農薬を減らすことができた。他の会員も同様に農薬を減らすことができそうだった。



虫見板を使って藤原さん(左)の田んぼの害虫の発生状況を説明する常清会長(中央)

## 八月二十八日(火) 環境農業研究会・例会

収穫を間近に控え、今年の新米の販売について会合を開いた。

今年は好天続きのため、コシヒカリは生育が早まり例年いらない早い時期での収穫となりそう。ヒノヒカリの生育は日長の影響のほうが大きいので、コシヒカリほど収穫は早まらない模様。

それでも、早い時期に新米をお届けしたいということと、新米の配達を例年より前倒しすることを決めた。ただし、ヒノヒカリは10月上旬の配達に間に合わないために、10月の米の配達を中旬にさせていただくこと



8月18日、環境農業研究会の面々がJAに集まり今年の米の出来具合、新米のお届け時期について話し合った。

とした。一〇月中旬の配達ではお米が足りなくなる方は別紙の案内書に対応策を記述していますので、一読の上、JAまで一報下さい。

なお、無農薬米については新米のお届けは従来どおり十一月からとなります。ご了承ください。

## たんぼでがんぼー収穫祭 十月十日(日)開催

恒例のたんぼでがんぼー収穫祭を10月10日(日)、9時からいつもの河内公民館で開催します。内容も例年通りです。多数ご参加ください。

### 内容

- 釜を使った稲刈りと大型コンバインの試乗会
- 芋ほり
- バーベキュー(いなごをとってくれたらいなごのから揚げもしようかな)
- 自然講座

坂本会長のマジックショー・金野さんのミニオカリ

ナコンサートetc

申し込み先

JA尾道市御調営農センター  
TEL 08487762242

来月の米配達日は

です

TEL 08487761585